

⑩ 公開特許公報 (A)

昭61-164974

⑩ Int. Cl. 4

識別記号

庁内整理番号

⑩ 公開 昭和61年(1986) 7月25日

B 65 D 85/16

6564-3E

A 41 B 13/02

7149-3B

A 61 F 13/18

S-6737-4C ※審査請求 未請求 発明の数 3 (全7頁)

⑩ 発明の名称 個別の使い捨て生理衛生用品の包装体およびその製造方法

⑩ 特 願 昭60-264709

⑩ 出 願 昭60(1985)11月25日

優先権主張 ⑩ 1984年11月26日 ⑩ スウェーデン (S E) ⑩ 8405952-6

⑩ 発 明 者 アルネ・フリヨイド スウェーデン国エス-444 00、ステーンウングスド、イデルガートン 7

⑩ 発 明 者 ステウエ・アルセンヴ スウェーデン国エス-435 00、メルンリユーケ、モルルヴェゲン 16

⑩ 発 明 者 ユルブン・グイドラン スウェーデン国エス-435 00、メルンリユーケ、ペールオンヴェゲン 5

⑩ 出 願 人 メールンリユーケ・アーベール スウェーデン国エス-405 03、ゲートボーク (番地なし)

⑩ 代 理 人 弁理士 安達 光雄 外1名  
最終頁に続く

明細書の序文(内容に変更なし)

明 細 書

1. 発明の名称 個別の使い捨て生理衛生用品の包装体およびその製造方法

2. 特許請求の範囲

1. 使い捨て生理衛生用品、好ましくは生理ナプキンおよび失禁用品の包装体において、該包装体がワンピース包装体か、または中間のミシン孔を設けた複数個のワンピース包装体よりなり、各包装体は液不透過性材料の袋として形成され、該袋を用いて内部の物品①を取出してから該袋の各壁のうち少なくとも一つに配列されたひだ(11)などを広げることによつて該袋が伸張できるようにして袋は使用後に上記物品を収容できるようにしたこととを特徴とする使い捨て生理衛生用品の包装体。

2. 前記袋は、その収納部分になるべくは折りたたまれた使い捨て物品を収容するようにした包装の状態で、この状態の時に平らで、包装体から物品を取出すと袋の内部に二つて開口可能となつて袋内に一層大きな空間をつくり出

し袋が使用済み物品を収容できるようにした少なくとも一個のポケット(11)と通連していることを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載の包装体。

3. 前記使い捨て生理衛生用品①は包装体内で折りたたまれていること、液不透過性材料のフィルム②は該折りたたまれた物品の両縁から物品の折りたたまれた部分間にある距離だけ折りたたみ込まれること、物品の同じ縁の周りに折りたたまれた相互に対接するフィルム部分(4, 5)が袋をつくるための結合剤(8, 9)によつて相互に接合されていること、前記袋はこれを開けて使い捨て物品を取出すために紙を裏に引つくり返して使用済みの使い捨て物品用のナプキン袋として利用できるより大きな袋を得るようにしたことを特徴とする包装体。

4. 使い捨て生理衛生用品、好ましくは生理ナプキンおよび失禁用品用で特許請求の範囲第1項に記載形式の包装体を製造する方法において、できる限り折りたたまれた使い捨て物品①が均

等な間隔をもってコンベヤベルトにのつて送られること、包装材料として用いられるフィルム片、または包装材料のフィルム②の連続したクエブが上記物品の送りと同期して前進すること、物品の周りに通するのみならず一つまたはそれ以上のびだをつくり出すだけの十分な幅を有するフィルム②またはフィルム片は例えばじや腹状(11)をつくり出すために折りたたまれ、同時に折りたたまれる各物品を包むために用いられ、物品①を収めて密封されることにより、包装材料がフィルム②の場合は、該フィルムは密封後に個々の物品間で切断するか、またはミシン孔を設け、該密封は、一個づつの包装体を作るかまたは包装された物品を入れた連続した袋の列を作るため、好ましくは各包装された物品の一端を少なくとも越えた先までフィルムを溶着することによりおこなわれることを特徴とする製造方法。

5. 前記物品①はその側面の一方を包装フィルム②の中心部分に対接させて当てられること、

載の製造方法。

### 3. 発明の詳細な説明

本発明は主として使い捨て生理衛生用品、好ましくは生理ナプキン、失禁用品などの包装体に關し、また二次的にはかかる包装体の製造方法に關する。

今まで、おむつ、生理ナプキンなどの使い捨て物品はプラスチック袋やカートンなどの大きな包装体にゆるく包装されるのが慣行であつた。旅行の際にこの種の包装体が少ししか要らない場合には勿論非実用的でかさ高すぎる。このため、最近ではこの種の生理衛生用品用のワンピース包装体が開発されている。この種のワンピース包装体は西独特許公開3146067号に記載されており、一端を中央部分に折りたたまれたプラスチックフィルムなどで構成され、この折りたたみの結果として整合されたこれら一端部分の側縁は溶着一体化され、折りたたまれた使い捨て物品を挿入できる収納ポケットを形成する。包装フィルムの他端部分はこのポケ

フィルムは物品を越えて先きに延びて側面部分(4, 5)を有し、該側面部分が物品の縁の周りに各物品上に間隔を置いて折りたたまれること、上記包装フィルム②は各物品①間で切り離されるかミシン孔が設けられること、結合剤のビード(8, 9)が各物品上に折りたたまれたフィルム部分の上端へ貼着されること、個々の使い捨て物品はそこに折りたたまれたフィルムと共に送り方向を横切つて延びる折りたたみ縁に沿つて折りたたまれ、このためフィルムは各一個の物品を包み袋を形成するため上記結合剤のビードにより密封されることを特徴とする特許請求の範囲第4項に記載の製造方法。

6. 前記包装体フィルム②は比較的幅が広く、物品①上に折りたたまれたその側面部分(4, 5)の縁部分(4', 5')は物品の側縁に向う方向に外側へ折りたたまれ、結合剤のビード(8, 9)が物品および重ねられたフィルムと共に折りたたむ前に上記縁部分(4', 5')に貼着されることを特徴とする特許請求の範囲第5項に記

スケットを覆う密封カバーの役目をし、この縁部分もまたその縁に沿つてポケットの縁に溶着される。このようにしてできたカバーにはさらに接着性ビードが設けられ、このビードによつてポケットは包装体を開いてから再び密封できる。このワンピースはさらに所謂サービス袋、即ち使用済みの使い捨て物品を入れるための収納袋を構成することを目的としている。

おむつ、衛生ナプキンなどの形式にした使い捨て物品が体腔を吸収した後はその形を変え置つて無格好になるということがこの種の使用済み物品をこの形式の先行技術の包装および(または)サービス袋にしまい込むことを事実上不可能にしているのである。

この目的で、包装体に入れた物品を使用済み後にこの使用済み物品を収納するためのサービス袋としても利用できるワンピース包装袋に使い捨て物品を包装できるようにしたいとする大きな要請がある。しかし、吸湿の使い捨て物品は比較的かさ高く、従つて包装工程においては

勿論体を出る限りコンパクトにすることが必要である。しかし、これまでのところ、上記目的をこのような物品用のサービス袋として使用できる程度に包装物を大きくする要求と組合せることは不可能であった。

しかし、上記課題の問題点は本発明によって完全に解決された。本発明の包装体の主たる特徴は包装体が中間のミシン孔を設けた一つまたは多数のワンピース包みよりなり、この各ワンピース包みは液不透過性材料の袋として設計されており、この袋は開けて内部の物品を取出した後は、袋の壁のうち少なくとも一つに設けられたひだなどが使用後の物品を袋が収納できるように広げられることによつて伸張できることにある。

本発明の包装体の若干の適当な実施例は特許請求の範囲第1項乃至2項に記載されている。使い捨て生埋生用品、好ましくは生埋ナブキンおよび失禁用品用の上記形式の包装体の本発明の製造方法は特許請求の範囲第4項、5項お

プラスチック片2は部分4、5では横方向に、部分6、7では縦方向に生埋ナブキンの縁を越えて延びている。

第2図に示すごとく、プラスチック片2の縁部分4、5は各側縁を周つて生埋ナブキン1の対向側上に折りたたまれている。図示の実施例において、ナブキンを囲んで折りたたまれた側部分の縁は全体に相互に向き合うように延びている。結合部、好ましくは熱溶融物の縦方向のヒド8、9は次に折り重ねられた横方向部分4、5の縁近くに貼着されると、ナブキン1は包装体ブランク2と共に横の中心線を中心にして折りたたまれる。この状態が第2図に矢印A、Bで示されている。折りたたみによつてできた二つの半体は圧縮されて接合部ヒド8、9によつてナブキンと包装体ブランクとを接合して緊密した包装体ができる。第3図はこのユニットの横断面図である。折りたたみ後は、包装体ユニットは好ましくは端部分6、7の両方を密着することによつて密封される。ミシン孔10

および8項に記載されている。

本発明は添付の図面を参考に以下にさらに詳細に記載する。

第1図において、符号1は包装しようとする生埋ナブキンを示し、2は包装体ブランクの役目をするプラスチックフィルムを示す。生埋ナブキンにはプラスチックフィルムに接触し、使用中は着用者の下着パンツに面する側にナブキンを所定位置に固定させ接着性被覆が施されている。この被覆は、例えば熱溶融物より構成することができるが、図面には示されていない。今までは、接着性被覆を施した生埋ナブキンを包装する方法は被覆に貼着されるはく離紙の使用を必要とした。しかし、このようなはく離紙は製品の全体コストに対しやや高価になるので、本発明のワンピース包装においてはプラスチック片2に塗布されたはく離被覆3を以て代替した。このはく離被覆は別個のはく離紙よりかなり安価であると共にはがれた紙ストリップの屑以前の避け難い取扱いと処分を不要にする。

は溶着部分より内側に同時に設けられる。

ナブキン1を取出すには、ミシン孔10に沿つて引き裂けばよい。入側へ折りたたまれた側面部分4、5のために、包装体ブランク2はナブキン1の周りを密着に密封している。ナブキンは開いた包装体からはすぐに引きだせない。その代り、ナブキンは包みを緩延にすることににより出てくる。折りたたみ込まれた側面部分4、5により形成された包装体壁のひだは次々と伸びて広がる。このようにして包装体ブランクをナブキンから引き戻してゆくと、からになった包装体ブランクは袋となるが、この袋はナブキン1用の包装体として用いられていた時の寸法に比べて可成り大きい。こうしてできた袋は使用済みナブキンを入れるのに十分な大きさの袋となつている。従つて、包装体ブランク2はコンパクトな包装体ユニットを包む密包体としてのみならず使用済みナブキンを入れる大きなサービス袋としても有用である。

第5図乃至8図の生埋ナブキンを包装する本

発明の方法の一例の実施例は第1図乃至4図に示した実施例と同様である。従って、第5図乃至8図において述べる細部は第1図乃至4図における対応の細部と同一の参照符号で示す。これら二つの実施例の相違点は第5図乃至8図の実施例の包装体ブランク2は第1図乃至4図のものより可成り寸法幅が広いことだけである。従って、第5図乃至8図の実施例においては、側面部分4、5がナブキン1上に折りたたれるのみならず縁部分4'、5'もナブキン1の縁に向つて外方へ折りたたまれる。このさらに折りたたんだ状態が第7図に明示されている。またこの実施例では、結合剤ビード8、9が側面部分の縁部域内に貼着され、さらに詳しく言えば、外側に折りたたまれた縁部分4'、5'に貼着される。

包装体ブランク2の側面部分が二重に折りたたまれているために、第7図および8図の包装体の実施例では、これを開けてナブキンを取り出した後は、第3図および4図の包装体で得られ

る袋よりも大きな袋が得られる。

号17において添着され、同時に切り離されて各面に適当にミシン孔18を有する個別のランビース包装体を形成する。包装体はこのミシン孔に沿つて便利よく開けられてナブキンを取り出すことができる。ナブキンを取り出した後は、包装体はからの袋の一方の壁に設けられたじや腹ひだ11を成げることによって簡単に拡大できる。

第12図および13図は第9図乃至11図の実施例の二つの変型を示す。唯一の相違はじや腹ひだ11のデザインが異なっていることである。

第14図乃至16図は本発明の包装体およびこれを製造する方法のさらに別の実施例を示す。

この実施例によれば、比較的幅広い寸法の包装体ブランク2がコンベヤベルト(図示せず)に沿つて連続的に送られ、等間隔に配置の生造ナブキン1は第14図に示すごとく、包装体ブランク2に沿つてナブキンの結合剤ビード12をブランク2のうちにはく離れで被覆した部分と対接させて重ねる。この被覆部分はブランクの少なくとも中心部分の近くに配置されブランクの

第9図乃至11図に示す実施例においては、包装体ブランク2は前進される連続の材料クエブから形成されている。この包装体ブランク2には先ずその縦方向の中心部分を折りたたみ合せることによって縦方向のじや腹ひだ11が設けられている。次にこの折りたたまれたクエブはじや腹ひだの両側に沿つて延びる縦方向に敷布されるはく離れ3で被覆されると、接着性ビード12、13を設けた生造ナブキン1が包装体ブランク2上に等間隔に重ねられる。ナブキンを使用中所定位置に保持する役目をする接着性ビード12、13は次にはく離れ被覆3に貼着される。

第10図に示されるごとく、ナブキンを縫合して横に延びる包装体ブランクの側面部分14、15はその重なり合う縁を熱溶融物ビード16によつて接着されてナブキンの周りに折りたたまれる。多数のナブキンをこのように包装体ブランクは最終的に各一つづつのナブキン間で符

縦方向に延びている。包装体は上記のごとく重ねてから、第15図に示すごとく個別のナブキンと共に折りたたまれてから添着され、隣接各ナブキン間で切断して切り離されたランビース包装体を形成する。

第15図に明示されるごとく、ナブキンの周りに折りたたまれた包装体ブランク2の底部分は頂面部分より符号19で示すごとく少し横に外側へ余分に延びて、この延長部分へ熱溶融物ビード20が貼着される。ナブキンを縫合して延びているブランク部分はナブキン上に折りたたまれ、その後包装体は熱溶融物ビード20により第16図の状態に封着される。このようにして作られた包装体を開ける時は、使わずみなナブキン用のナビス袋として利用できるさらに大きな袋が得られる。

本発明は以上に記載の実施例に限定されるものではなく、多数の変型が付属の特許請求の範囲内において考えられる。

例えば、第3図および4図に示すごとき実施

例同様の包装体は第1図および2図に就いて説明した以外の方法でも実施できる。ナプキンの幅に就いて第1図に示した幅と同じ幅を有するプラスチックウェブを基板として用いると、第2図について述べたごとく包装体を折りたたんで封着する代りに、ナプキンに就いて非常に大きな袋を得るためにナプキンの横方向の中心線を中心に包装体ブランクおよびナプキンを折りたたんでからナプキンの側縁および包装体ブランクを溶着または接着することができよう。このようにナプキンを縫えた先で横に延びる袋部分は第3図の包装体と同様な包装体を作成するために折りたたまれたナプキンの二つの半体間の空間にたたみ込むこともできる。

第3図に開示の形式の包装体を得るためには折りたたまれたナプキンを幅広い袋の中心部に完全に挿入し、ナプキンより先へ延びている袋の部分ナプキンの半体間にたたみ込むことによって勿論できる。

4. 図面の簡単な説明

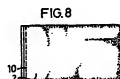
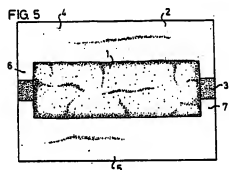
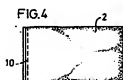
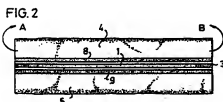
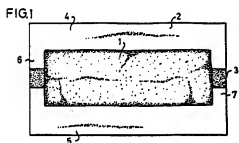
第1図は被包装物品をのせた包装体ブランクを示し、第2図は第1図の包装体ブランクの第1実施例による包装体の方法を示し、第3図は完成包装体の横断面、第4図はその平面図、第5図乃至第8図は本発明の包装体を僅かに変型にした実施例を示し、第9図乃至第11図は第3実施例とその製造工程を示し、第12図および第13図は本発明の包装体の二つの追加実施例を示し、第14図乃至第16図は包装体のさらに別の実施例とその製造方法を示す。

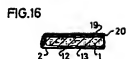
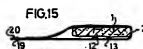
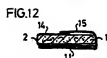
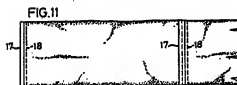
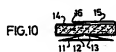
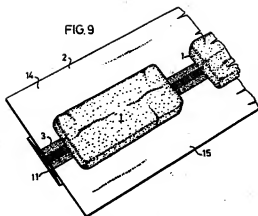
なお図において、符号1は物品、2はフィルム、4、5はフィルムの相互に対接する部分、8、9は結合剤、11は側面ポケット、4'、5'はフィルムの側面部分4、5の縁部分4'、5'である。

特許出願人 ノーランリュウ・アーバー

代理人 安達光雄

同 安達智





第 1 頁の続き

⑥Int. Cl. 4

識別記号

庁内整理番号

A 61 F 13/18  
B 65 B 11/02


開 昭和61年(16737-4C  
7726-3E

⑥発 明 者 カール・ダニエル・  
ノレンベルグ

スウェーデン国エス-411 30、イヨーテブルグ、ランダラ  
ゴンゲン 14

手 続 補 正 書

昭和 61 年 / 月 9 日

特 許 庁 長 官 宇 賀 道 郎 殿 

1. 事件の表示 昭知 60 年特許願可 264709 号
2. 発明の名称  
推測の使い捨て生理用ナプキン用品の  
包装体およびその製造方法
3. 補正をする者


事件との関係 特許権継承人

~~代理人~~ 代理人

フリガナ 名称 メ-ルソリュ-グ・ア-ベ-

4. 代 理 人

住 所 大阪市西区江戸堀 1 丁目 22 番 32 号  
(電話 06441-1816・444-4530)

氏 名 (5969) 安 達 光 雄 

5. 補正の対象 明細書

6. 補正の内容 明細書の序言 (内容に変更なし)

7. 添付書類目録

明細書 (序言以外の)